

## My wonderful experiences

名古屋市立菊里高等学校 1年 山田華凜

### 1. 私の研修の目標

私は将来、日本の外交や国際貢献に関する仕事に就きたいと思っています。そのため、様々な社会的背景を持った人たちからなる異文化・多文化共生の社会について学び相互理解を深めるため、幅広い視野を身につけたいと考えていました。

今回の研修では、オーストラリアの生活習慣や文化、教育などを実際に学び、日本との違いを理解したいと思いました。

### 2. 事前の準備

事前にオーストラリアについて調べ、言語や生活習慣などについての知識を身につけました。

また、日本の文化や学校など、現地の人と話す話題を考えて文章を作ったり、紹介できるように冊子を作りました。

### 3. シドニーでの体験

現地で過ごした毎日は、驚くことばかりでとても新鮮でした。

体験入学では1人1人にバディがついて、オーストラリアや学校のことなどについて、色々な話をしてくれました。私はオーストラリアの学校では日本語の授業があることを知り、バディの日本語が上手なことにびっくりしました。また授業に参加した時に、様々な国籍の生徒たちがお互いの意見を尊重しながら、活発に発言し合う光景が見られました。また、間違いを恐れず積極的に手を挙げ、自分の意見を主張する生徒たちの姿が素晴らしいと思いました。日本でも、こういった姿勢を見習う必要があると思いました。

ホームステイ先では、雄大な自然が広がる場所でホストファミリーにたくさんの体験をさせてもらいました。海岸の周りを歩いた時に見た景色はとても綺麗でした。夜には星空の広がる下で、キャンプファイヤーをやりました。また、乗馬や牛のえさやりなど、大変貴重な体験ができた日々だったと思います。

他にも、シドニー市役所表敬訪問やタロンガ動物園視察など、1日1日が一生忘れられない思い出となりました。

### 4. 研修の成果と今後の課題

#### <成果>

現地に到着してから初日はなかなか積極的に話すことができませんでしたが、日を重ねるごとに伝えたいことを色々な場所で発言することができ、英語力は向上したと思います。体験入学やホームステイなど多くの交流を通じ、コミュニケーションの大切さやお互いを尊重する姿勢、積極性、失敗を恐れないことの重要性などを学ぶことができたと思っています。

今回の研修ではオーストラリアの空気を肌で感じ、たくさんのことを吸収し、何もかも全てを自分のものにできたと思います。自分の将来にとって、日本と外国の社会の様々な違いを知ることができたことは、大きな成果であったと思います。

#### <課題>

英語でどう説明したらいいのか、伝え方に迷ったときがありました。自分の意見を正確に分かりやすく伝えるためにはもっと英語力を高めるべきだと強く感じました。

また体験を通して学んで吸収したことを、今後の国際交流に生かせるようにしたいです。英語だけでなく各教科の勉強にも励み、幅広い知識や視野を持つよう努力していきたいと思っています。



ブルーマウンテングラマースクールでのバディとの授業風景

## シドニー派遣を終えて

名古屋市立菊里高等学校 2年 服部かれん

### 1. 私の研修の目標

私の親戚には、オーストラリアに住み、オーストラリア国籍を取得した人がいるので、以前からオーストラリアに興味を持っていました。

世界には色々な英語があります。学校で習う英語はアメリカ英語で、オーストラリアの英語はアメリカ英語とは違うところがたくさんあると聞いていたので、オーストラリアで現地の英語を直接聞いて勉強することを目標としました。

### 2. 事前の準備

日本や名古屋のことをオーストラリアと比較しながら調べました。外国の人に日本をどう紹介するかを考えた時、自分がいかに日本のことを知らないか、ということを感じました。また、シドニー市役所やホームステイ先で披露するためのソーラン節（日本の踊り）も練習しました。

### 3. シドニーでの体験

ホームステイと現地校への体験入学が私の一番心に残った思い出です。ブルーマウンテングラマースクールでは、一人につき一人現地の生徒さん（バディー）がついてくれて、バディーの家にホームステイさせてもらいました。ホストファミリーが私に、家族の一員のように接してくれたのでとても楽しい時間が過ごせました。私のバディーは日本語を勉強しているということもあり、ホストファミリーがとても日本に興味を持ってくれて、日本のことについて聞いてくれたり、それ以外でもたくさん話しかけてくれました。そのため、ホストファミリーと会話がなくなるのではないかと不安でしたが、そんなことは心配にならないくらい楽しかったです。

ジャンバルーでのホームステイはブルーマウンテンの時とは全然違っていました。多くの家庭が牛や馬を飼っていて、私のホストファミリーも飼っていました。私が驚いたのは、牛や馬を家畜としてではなく、ペットとして飼っているということです。近所の人との会話でも、飼っている牛の品種の話で

盛り上がっていたり、町の本屋さんでは牛のカタログが売っていたりと、思いがけないところで新しい発見がありました。

### 4. 研修の成果と今後の課題

#### <成果>

初めは、OKと言われただけでもオーストラリア特有の発音にとまどいましたが、会話を聞いている間にオーストラリア英語の特徴が分かってきて、初めは聞き返していた単語も分かるようになりました。アメリカ英語との違いをたくさん発見することができました。

#### <課題>

現地の学校に行ったとき、話が盛り上がり、みんなが早口になると私には英語が聞き取れない、という場面がよくありました。きっとおもしろい話をしているのだろうと思うけど分からない、という体験をした時に、もっと英語を勉強したいと一番強く思いました。だから逆に、ジョークが理解できて一緒に笑えた時はとても嬉しかったです。

次の目標は、もっと英語を勉強して、早口な英語でもジョークでも理解して一緒に笑えるようになることです。



ブルーマウンテングラマースクールでのバディーとの授業風景